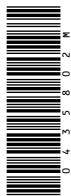


貯 法：1. 気密容器に入れて遮光保存。  
2. 火気を避けて保存。

使用期限：紙箱、容器等に記載

注 意：取扱上の注意の項参照



## 速乾性手指消毒剤

# ヒビスコール液A0.5% Hibiscohol A0.5%

### \*\*【禁忌(次の場合には使用しないこと)】

(1) クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者

\*\*【(2) 膈、膀胱、口腔等の粘膜面

[クロルヘキシジン製剤の上記部位への使用により、ショック、アナフィラキシーの症状の発現が報告されている。]

(3) 損傷皮膚及び粘膜

[エタノールを含有するので、損傷皮膚及び粘膜への使用により、刺激作用を有する。]

### 【組成・性状】

ヒビスコール液A0.5% 100mL中

クロルヘキシジングルコン酸塩 0.5 g含有

添加物としてアジピン酸ジイソブチル、アラントイン、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸グリセリル、グリセリン、pH調整剤、エタノールを含有する。ヒビスコール液A0.5%は無色～微黄色透明な液で特異なおいがある。

### 【効能・効果】

手指の消毒

### 【用法・用量】

本剤をそのまま用いる。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

手指の消毒における使用濃度は、クロルヘキシジングルコン酸塩として0.1%～0.5%であり、本剤は0.5%であるので、そのまま用いる。

### \*\*【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の場合には慎重に使用すること)

- (1) 薬物過敏症の既往歴のある者
- (2) 喘息等のアレルギー疾患の既往歴、家族歴のある者

\*\* 2. 重要な基本的注意

- \*\* (1) ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。
- (2) 本剤は希釈せず、原液のまま使用すること。
- (3) 本剤の使用中に誤って眼に入らないように注意すること。眼に入った場合には、直ちによく水洗すること。

\*\* 3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

\*\* (1) 重大な副作用

ショック(0.1%未満)、アナフィラキシー(頻度不明)  
ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧低下、蕁麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻度不明	0.1%未満
過敏症 <sup>注1)</sup>		発疹・蕁麻疹等
皮膚 <sup>注2)</sup>	刺激症状	

注1) このような症状があらわれた場合には、直ちに使用を中止し、再使用しないこと。

注2) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

\* 4. 適用上の注意

投与経路：手指消毒以外の目的には使用しないこと。

使用時：

- (1) 反復使用した場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。
- (2) 血清・膿汁等の有機性物質は殺菌作用を減弱させるので、これらが付着している場合は、十分洗い落としてから使用すること。
- (3) 石けん類は本剤の殺菌作用を減弱させるので、予備洗浄に用いた石けん分を十分に洗い落としてから使用すること。
- (4) 引火性、揮発性があるため、**火気には十分注意すること。**

\* (5) 溶液の状態です長時間皮膚と接触させた場合に皮膚化学熱傷を起こしたとの報告があるので、注意すること。

5. その他の注意

クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の投与により、ショック症状を起こした患者のうち、数例について、血清中にクロルヘキシジンに特異的なIgE抗体が検出されたとの報告がある。

### 【薬効薬理】

1. 本剤は使用濃度において、栄養型細菌(グラム陽性菌、グラム陰性菌)、結核菌、真菌、ウイルス等には有効であるが、芽胞(炭疽菌、破傷風菌等)及び一部のウイルスに対する効果は期待できない。
2. ヒビスコール液A0.5%は、*in vitro*の試験において、グラム陽性菌、グラム陰性菌及び真菌を15秒以内に殺菌した<sup>1)</sup>。

### 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：クロルヘキシジングルコン酸塩  
(Chlorhexidine Gluconate)

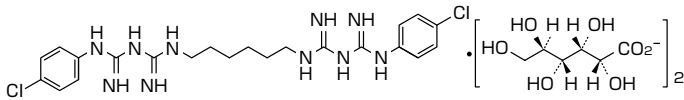
化学名：1,1'-Hexamethylenebis[5-(4-chlorophenyl)biguanide], di-D-gluconate

分子式：C<sub>22</sub>H<sub>30</sub>Cl<sub>2</sub>N<sub>10</sub>・2C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>7</sub>

分子量：897.76

**性状：**通常、水溶液として存在し、その20w/v%液は、無色～微黄色の澄明な液体で、においはなく、味は苦い。水又は酢酸(100)と混和する。本品1mLはエタノール(99.5)5mL以下又はアセトン3mL以下と混和するが、溶媒の量を増加するとき白濁する。光によって徐々に着色する。  
比重  $d_{20}^{20}$  : 1.06 ~ 1.07

**構造式：**



## 【取扱い上の注意】

### 〈注 意〉

本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸塩で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過炭酸ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。

### 〈安定性試験〉<sup>2)</sup>

加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヶ月)の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、本製剤は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

## 【包装】

500mL, 600mL, 1L

## 【主要文献】

- 1) サラヤ株式会社 バイオケミカル研究所 資料
- 2) サラヤ株式会社 バイオケミカル研究所 資料

## 【文献請求先】

サラヤ株式会社 学術部  
〒541-0051 大阪市中央区備後町4-2-5 TEL:06-4706-3938